

アイキャンだより

2003年4月
第30号

特集 フィリピンの現状理解を深める

- ミンダナオの子どもの暮らし 松岡 p.2-3
- パヤタスの女性たちの生活 テス p.4
- 国際理解教育活動報告 p.5-9
第三回国際理解講座「教材を作ろう」 山北
講座運営ボランティアに参加して 飛田・山北
写真展（ウィルあいちで開催） 渡辺
2002年国際理解教育活動を振り返って 早川
- 伊藤洋子活動報告会に参加して p.10
- 2003年定期総会の報告 p.11
- ありがとう（文具/葉書/テレカ等） p.11
- 会員になって活動を支えよう！！ p.12

ICAN (アイキャン)
特定非営利活動法人
アジア日本相互交流センター



〒450-0003
名古屋市中村区名駅南
1-20-11 NPO プラザなごや2F

TEL&FAX (052) 582 - 2244
E-mail : ican@jca.apc.org
ホームページ : <http://www.jca.apc.org/ican/>

会費と寄付金の振込先

郵便振替) NPO 法人 ICAN, 00850-6-78233
銀行) UFJ 銀行 名古屋駅前支店 普通 2361021
NPO 法人 ICAN
E-BANK) 支店番号 210 口座番号 7001258
特定非営利活動法人 アジア日本相互交流センター
ジャパン ネット バンク) 店番号 001 口座番号 4005809
特定非営利活動法人 アジア日本相互交流センター



ミンダナオの里子の一家



お手伝いをする里子のRathelleさん

フィリピンの子どもの就学を支援する
＜里親会員＞募集！（P.2-3）
2002年の国際理解教育活動（P.5-9）

事務局オープン日時が変わります
2003年4月～6月
問合せ対応：火～土の13時～17時
ボランティア活動：水・木・土の13時～17時
2003年7月～
問合せ対応：火～土の13時～17時
ボランティア活動：水～土の13時～17時
よろしく願い申し上げます！

ミンダナオの子どもたちの暮らし

松岡 亜湖

1994年に始まった里親プログラムも、いよいよ九年目に入りました。今年もミンダナオの南端の街、ジェネラルサントスに住む150名(小学生126名、高校生24名)の子どもたちを支援します。今年も、里子への学費や学用品・医療費等の支給だけでなく、家庭の収入改善のプログラムも検討していきたいと考えています。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

里親プログラムを実施しているミンダナオ島の南部は、イスラム武装勢力の影響が大きい地域で、不安定な政治情勢が、子どもたちの学習環境や家族の収入状況にも影響しています。それでも、子どもたちは元気に学校に通っています。

ここでは、現地で実際にサポートをしている社会福祉団体Love&Life(以下、L&L)から届いたレポートを通して、子どもたちの生活や学校での様子をご紹介します。

1) 小学3年生の里子 - Tres Salamancaさん

Tres Salamancaさんは、とても小柄でかわいらしい男の子です。身長は42インチ(106センチ)、体重は22キロです。小学校3年生です。走り回って遊ぶのが大好きで、家の手伝いもしっかりします。家族もTresさんの食事や衛生に気配りをしています。

里子の家庭の多くは、ニパというやしの葉の材料と竹や木で作られており、Tresさんの家もそうです。彼は、水汲みや掃除を日課にしており、時々皿洗いも手伝います。食事の後は、テレビも見ますが、必ず宿題もします。しっかり勉強して、学校で賞をもらおうと、がんばっているのです。週末には、大好きなお母さんと外出することもあります。



真ん中がトレスさんです

Tresさんの母親は、女手ひとつで5人の子どもたちを育てており、経済的には非常に厳しい状態です。彼女は服飾の仕事をしており、多いときは一日100~150ペソ(240~360円)、一ヶ月に1500ペソ(約3700円)を稼ぎます。フィリピンでは、ファーストフード店の朝食が150ペソ。Salamanca家の収入は、子どもを学校へ通わせ、家族で食べていくには充分ではありません。里親支援のおかげで、学校に通えることを、Tresさんはとても喜んでおり、学校でも熱心な勉強ぶりを見せ、担任の先生も感心しています。

2) 高校3年生の里子 - Necity Entradaさん -

Necity Entradaさんは、高校二年生です。一昨年は、最後まで追試の対象になり、ぎりぎりまで粘って、進級を果たしました。(ICANの里親支援は、高校生の継続については、『留年しない』ことを条件の一つに入れています)彼女が無事に進級できたときは、Necityさん本人やご家族はもちろんのこと、L&Lも、日本の里親も、心から喜んでいました。

とはいえ、収入が充分ではない環境で、高校に通い続けることは、たいへんな努力を伴います。昨年彼女は喘息で入院し、体重も落ちてしまって、栄養を取り体力を取り戻そうと、本人も家族も気をつけました。2002年8月の計測では、回復が見られ、身長57インチ(=145センチ)、体重31.5キロとなりました。病気は治ったとはいえ、まだまだしっかり栄養を採る必要があります。

Necityさんの母親は、小さな店を持ち、そこでバナナキュー(焼きバナナ)を作って販売しています。Necityさんは、午後は店の皿洗いを手伝います。一日の収入は50~70ペソ(120~175円)で、米やおかずの材料を母子で一緒に買って帰ります。(兄弟が7人で、4人が学校へ通っています。既に働いている子どもは家計を助けています)家族はとても仲がよく、困難な環境でも、助け合って生活しています。



Necityさんは、高校の授業では、一生懸命に授業を聞き、分からないところは、家で、お姉さんに教えてもらい、少しでも成績を上げようと努力しています。以前は、学校で他の生徒にからかわれることもありましたが、今は、先生の理解もあって、からかわれることはなくなりましたが、引っ込み思案の彼女は、自分から友達に話しかけることは難しいようです。

3) 小学2年生の里子 - Gyck Vallera Arrellanoさん -

Gyck Vallera Arrellanoさんは、2002年から支援を受け始めた、活発な男の子です。9月に風邪をひいてしまったときは、L&Lより医療支援を受けました。家では、水汲み、掃除、皿洗いを手伝います。週末には、鶏の餌やりやお遣いもします。

Gyckさんの父親は、電気工として働いており、一日100ペソ(240円)を稼ぎます。母親は、以前はサリサリストア(雑貨屋)を経営していましたが、今は無職です。一ヶ月の収入は1000ペソ(約2400円)で、子どもを学校に行かせることは難しいのです。

Gyckさんは、Lanton小学校に通っています。授業態度は熱心で、板書もしっかりととり、レクリエーション活動にも参加します。簡単な算数や英語・タガログ語の簡単な単語も書けるようになりました。

ICANでは、2003年の里親を引き続き5名募集しています。フィリピンの子どもたちの就学と成長を、日本から応援して下さる方を、お待ちいたしております。

2004年3月には、3名の里子は、ついに、晴れて高校卒業の日を迎えます。里子たちが、困難な環境の中で勉強を継続し、高校を卒業したという自信を胸に、経済的貧困から抜け出すきっかけをつかめるよう、サポートしていきたいと思えます。

里親プログラムを今後ともよろしくお願い申し上げます。



入学式のひとコマ(2002年6月)

パヤタスの女性たちの生活

Marites Estabillo (通称,テス)

パヤタスの女性の多くが、家族、そしてとりわけ家計を支えています。彼女たちのおかげで、家族全員の食べ物の確保・子供達の通学・家族の病気や怪我への対処などが行われています。その中には、ゴミ拾いで生計を立てる人(スカベンジャー)もいれば、店の売り子や食べ物屋の人、生活支援プログラムで働いている人もいます。こうした仕事は、特別な能力を必要とせず、自宅から遠く離れずに済むため、小さな子供達に目配りができます。

女性たちのなかには、一家の大黒柱となっている人もいます。夫が就労不可能、あるいは失業中のために、彼女達が一家の稼ぎ頭となっているのです。家族構成は3人から9人の家庭が大半です。多くの家庭で、働き手であり母親でもある女性たちは、朝4時に起き、水汲みをし、朝食を作り、子ども達の学校へ行く支度をしてやり、夫を仕事へ送り出します。人によっては、午後は、ゴミ捨て場でゴミ拾いをして過ごさなくてはなりません。

何人も小さな子どもがいる家庭では、年上の子どもが弟妹の面倒をお母さんのかわりにみるでしょう。でも、食料はお母さんが工面しなくてはなりません。午後になるとゴミ捨て場のゴミは少ししかないのですが、それでも何とか使えそうなものを探しだしてジャンク・ショップ(ゴミの買取屋)へ売って、収入を得なければなりません。



作業所のチャリータさん(子どもたちと)

午後5時ごろになると、家を掃除したり夕食用に食べ物を探したりし始めます。多くの家庭がその日暮しの生活、つまり日毎食事ごとに食べ物を買わねばならないという状態にあります。タリパパと呼ばれている場所のすぐ近くに、女性達が利用している小さい市場があります。彼女達のその日の稼ぎは、米・魚・野菜・牛乳などの食べ物代、学校関係の出費、薬代、借金の支払いなどに当てられます。パヤタスでも、発言力を増した女性が見られるようになりました。このような女性たちは夫の意見を聞くことなく自分で決断し、家族のために何ができるかを模索しています。

しかし残念なことです。受身の母親がまだ大勢を占めており、何かが起きるのを待つという姿勢です。自らの健康上の理由や障害を持った子供のために、働けない人たちもいます。いわゆる家庭内暴力の被害を受けている女性もいまだにいます。ここでは今なおアルコール中毒や麻薬問題が存在し、女性や子供たちが被害を受けています。

<収入向上プログラム(職業訓練)>

小規模とはいえNGOであるICANは、生活支援のため、女性を対象とした収入向上プログラムを始めることにしました。研修を受けて縫いぐるみ・手作りの小銭入れ・バッグ・帽子などを作れるようになった母親達が数名います。

また彼女達は、自分達自身でプログラムを運営できるように研修を受けています。すでに研修を受けた女性たちは、他の女性たちにも学んだことを伝えようと、ぬいぐるみ作り・かぎ針編み・キャンドル作りなどの講習を行っています。プログラムに関心を持った女性たちには、金曜か土曜に来所するよう働きかけています。講習は丸一日かかるので、講習終了後、受講者にはICANから米1kgが支給されます。プログラム参加者は、研修の行い方、商品の改良について、さらに研鑽を積むとよいでしょう。



ハンディクラフトを製作するビビアンさん

第三回国際理解講座「教材を作ろう」

山北 暢子

第一回「支援を受ける〈人〉の想い」(6/29)、
第二回「〈格差〉はなぜ生まれるの」(8/4)に続き、
第三回目の国際理解講座「〈教材〉を作ろう」を
9月21日、名古屋国際センターにて実施しました。

本講座は、『NIED国際理解教育センター』の
伴さん司会によるアイスブレイキング(他己紹介)
から始まりました。参加者のほとんどは初対面
同士だったのですが、この他己紹介によって、
空気がほぐれ、ざっくばらんに話せる雰囲気
になりました。

次に、教材づくりの視点や問題などを、『地球
の木』の横川さんにお話いただきました。内容は、この日、参加者が自分の手で始めよ
うとする教材作りに関して、ご自身の体験(フィリピンのフェアトレードバナナに関する教
材作りについて)を踏まえたもので、具体的で分かりやすいものでした。

お話を聞くうちに、一同、教材作りの難しさを再認識しましたが、ヒントもたくさん頂け
て、参加者は話を聞きながらメモを取っていました。

その後お昼休憩までの約30分間で、第一回・第二回の講座報告とパヤタスの紹介・
ビデオ「神の子」の紹介(一部上映・5分程度)を行いました。‘十分に人に伝わる’ような
教材作りそのものに重点を置き、「パヤタス」という枠をあえて設定せずに進めることにな
った第三回の講座でしたが、これまでの講座とパヤタス紹介を行うことで、パヤタスの
教材作りへの関心が少しでも生まれることがねらいでもありました。第三回のみ参加
者の中には、パヤタスの紹介が行われ、教材づくりが一向に始まらない様子に戸惑って
いるように見受けられましたが、ビデオ「神の子」の一部上映時には、強い関心を寄せて
見入っていました。



ただいま教材製作中！

13:00-15:00には、「NIED」の伴さんによって、
グループ分け・テーマの掘り出しを行いました。
方法は、まず“大切なものは？”という問いを
受け、各参加者が思いつくどんなものでも書き
出していくことから始まりました。テーブルごと
に、集まった一つ一つを発表していくと、ホワイト
ボードに書ききれないほどでした。固定観念
などで、せっかくの発想を打ち消すことのない
テーマ探しの方法を体得したと思います。

次に、同じ要領で“教材と聞いて思いつくもの”を挙げ、今度は、一見違うようにみえる
それぞれの意見に、共通点を見つけてつなげていく作業をしました。自分の考えと一つ
の表現方法に固執せず、柔軟性をもつ訓練になったと思います。

教材を作る際のグループ分けは、自分がすこしでも興味のある問題(例えば平和、異
文化交流など)を書き出し、順位をつけ、その紙を持って歩きながら、すこしでも共通点
の多い仲間を見つけてグループに分かれました。そして、前半に自然に身に付けた方
法も活用し、各グループが、さまざまな伝授方法とスタイルで教材作りを進めました。「ど
うやって伝えるか」を集団作業で考え、参加者本人の気持ちと作業の経過を重視する内
容で、これから本当に教材を作っていく上で参考になったとおもいます。

当日のタイムスケジュール	
10:00-10:40	アイスブレイク (絵を使い他己紹介)
10:40-11:30	横川さんのレクチャー(教材製作 について、視点の持ち方など)
11:30-12:00	パヤタス紹介、神の子視聴
12:00-13:00	休憩 (午後は全体を伴さんがコーディネート)
13:00-14:30	「教材」についての意見交換
14:30-15:00	テーマの掘り出し、グループ作り
15:00-16:00	教材作り
16:00-16:45	発表会
16:45-17:00	意見交換、後片付け

講座運営ボランティアに参加して

アイルランドでの活動に活かすー

飛田 明子

ただ「 - 国際的でありたい - 」との思いから、2002年4月に、ICANの国際理解講座の企画に、ボランティアとして加わりました。全く国際的な感覚が植え付けられていなかった当時の私には、1つ1つの情報が新鮮で、あのころの私はこの活動なしには考えられません。

個人的にはアイルランドが好きで、日本とアイルランドを結ぶ東西の文化交流に興味があったのですが、今の世の中、東西というよりは南北問題のほうが深刻でニーズがあるのではないかと、南北格差の緩和こそ先ではないかという思いと、もっと自分の視野を広げたい、との希望から参加しました。

1回1回のミーティングが楽しくて、その度に龍田さんや松岡さんから学ぶことが多く、ワークショップで出会う人たちからも様々な影響を受けました。フェアトレードの商品に感動し、たくさん買い込んで友人にプレゼントしていました。

ずっとアイルランドとフィリピンが並行して、心の中にありましたが、やっぱり私はアイルランドのために生きます。

でも日本とフィリピンを結ぶ ICAN の活動から、これからの私に活かせるものは絶大で、本質的には同じことのように思います。ずっと、ミンダナオのチェリーちゃんの里親ではあり続けるわけだし、この先、私の中の東西南北の心理的な距離は縮まり、たとえどこの国であれ、好き嫌いを越えて、自分のできることをしていくのだと思います。

アイルランドへいっても、NGOの活動やできる限りの手助けをしていきます。そういう私の希望の根作りをICANはしてくれました。本当に、国際理解講座に参加してよかったと、今でも思っています。



左端が飛田さん(8/4 講座のひとコマ)

ー今後のICANの活動に活かすー

山北 暢子

“国際的なボランティアはしたいけれど、では具体的にどんなことがしたいのかは分からない。”そんないい加減な私が、5月下旬に突然事務所を訪問して以来始めた、全3回の国際理解講座の協力。突然の事務所訪問とたまたまタイミングがあったから始めたようなものでした。国際協力についても、ましてやパヤタスのことについて、ド素人の私が、一体ヒトに何が伝えられる(理解させられる)のだろうと 不安で、怖くてしかたありませんでした。

でも、始めてみると、無知な私に丁寧に優しくいろいろなことを教えてくださる皆さんに励まされ、質問や疑問・関心が生まれ、自分のしたいボランティアもはっきりしてきたように思います。ミーティングに参加し、その議事録作成の担当になることも、自分が事務所で得た知識などをまとめ、人に伝えることの訓練になったように思います。

第三回の国際理解講座では、自分が皆さんの前での発表もし、少しずつ、協力できているような気がしています。まだ、パヤタスも訪れたことがなく、知識も経験もこれからが肝心だと思いますので、これから、未永く活動したいと思っています。

皆さん、これからもよろしくお願いします。

写真展(ウィルあいちで開催)の報告

渡辺 由紀子

9月28日から10月11日までウィルあいちにて、ガイアの会の《「神の子たち」上映会》のプレ企画として、写真展を行い、私も企画からボランティアに参加しました。その準備・展示・搬出などで、たくさんの方に助けて頂き、手伝って頂き、教えて頂きました。こういった企画の準備など今まで経験がなく、その過程で、より良く見て頂くためのちらしの作りかた・写真の展示方法など、多くの学ぶことがあり、今後活かせる知識になりました。たくさんの方の支えとご助言をありがとうございました。

みなさんは、ボランティアをした時、どういう時にうれしいと思ったり、感動しますか？
私が今回うれしかったことは、

『私が呼びかけた写真展の展示ボランティアの募集に「参加します」と返事・反応があったこと』

『自分が思いついて、作った感想コーナーに、19もの感想があったこと。』

『写真展の様子を見に行ったときに、展示写真だけではなく、その感想コーナーにも注目してくれてる方がいたこと』

です。無我夢中で準備等をしてきましたが、自分がしたことについて応えてくれた方がいたことに、特にとてもうれしいと思い、感動しました。そして、その寄せていただいた感想にも心うたれました。写真をご覧になっていない方にも、ぜひ読んで頂きたいと思い、ここに書き写しました。

<参加者の感想のご紹介>

「自分が幸せなんだと強く思いました。私は、36才の2児の母です。男の子ですが、なかなか食べ物いろんなものを大切にしないで少々困っています。この作品点を見て一度神の子たちの本を読んでみせてあげたいと思いました。本当は「神の子たち」の映画を見せてあげることが一番いいのかもしれませんが、まだ8才と4才の彼らにわかるのかと



いう不安が少々あります。もっと人のたくさん集まる場所でこの作品が大きく紹介されるようになることを祈っています。時間をつくって見にこられたら、また私の中で何かが変われる気がしました。活動者のみなさんの健闘を、心より祈っています。」

「私よりも小さい子なのに、ゴミの山でくらす姿にはおどろきました。もし私がこの人達の中の一員だったら・・・。」

「私が住んでいる同じ地球でこんなにヒサンな生活をしていることを知っておどろきました。」

「どの写真にもゴミの山が映っていてびっくりした。私も真剣にゴミの問題について考えないといけないなと思った。」

「みんな全然私達と変わらない。むしろもっと人間的にきれいかもしれない。何が違うのか、何も変わらないのに、私達とはかけ離れた生活をしているというのがよく分かった。」

主催が“ICAN = 私はできる”ということでしたが、“私には何ができるのか”というのをとても考えさせられました。でも知ることだけでもできてよかった。」

「貧困のすさまじさを実感しました。共に生きるために何が日本人にできるか考え行動していきたいと思います。」

「ゴミの山の中に住んでいたって、その人々は「ゴミ」じゃないはずだ。私達先進国の一人一人と、同じ重さの命を持つ、尊い人間だ。ゴミにまみれた、みすぼらしい格好の彼らを見て強く、そう感じた。彼らを世界の『ゴミ』にしちゃいけない。」

「笑顔がすごくきれいで表情が豊かな所が逆にせつない気持ちにさせられました。フィリピンの人達の心の豊かさを感じました。」

「とてもかわいそうだと思いました。これからは愛知中学みたいにスモークマウンテンの人たちを文化祭に呼んだり支援したりできるように努力していきたいと思いました。まな・W」

「澄んだ瞳の笑顔の背景がなぜ大自然ではなかったんだろう。自分の肉親だったらすぐにでも『ここにはいけない』って言う。」

「この展示を見て、自分が“ハッ”と思った事は、やっぱり毎日の生活の中では風化してしまうのでしょうか？自分が何かを思うのと、この環境が変わるのは関係が有るの？」

「とてもすばらしい展示だと思いました。この展示がもっと多くの人が集まる学校やスーパーなどで出来るようになると良いと思います。」

「主催者の気持ちが伝わる写真展だと思います。ICANのますますの発展をお祈り申し上げます。」

「今の状況とこの写真に映っている状況には、あまりにもかけ離れたものがあったので、心に残りました。私も自分なりに世界のことを考えて行動していきたいなあと思いました。」

「“パヤタスには「生きようとする力」があふれている。”なるほど～と思います。今、日本で自殺する人がとても増えているようです。先が全く見えない生活の中でも、今、この一瞬を生きようとするパヤタスの人達の『生きようとする力』に教えられることがたくさんあるだろうなと思います。『神の子たち』、観にいきます。」

「お母さんの胸に抱かれている赤ちゃん。その安心したあどけない表情が印象にのこりました。世界中の子供たちに豊かな未来が広がるようにできることをしてゆきたいな。」

「この写真を通じて自分に何ができるのかと考える前にできることからはじめようと思えました。」

「日本とのギャップを感じました。世界には“(経済的)豊かさ”を必要としている人達が大勢いることと思います。」

「かわいそうです。すごく。でもそんな事を感じさせない笑顔ができるなんてとても心が澄んでいると思います。」

この感想を書かれた、のべ19人のみなさま、ありがとうございました。

そして貴重な経験をさせて頂き、ICAN・ガイアの会さんにとっても感謝しています。

【自分ができることをして、自分がうれしくなっちゃおうボランティア】を、これからも私は続けていきます。

2002年の国際理解教育活動を振り返って

早川 潔

ICANでは、2002年4月から12月にかけて、国際理解教育に力を入れて活動しました。夏から秋にかけ、3回シリーズの国際理解講座(6月24日、8月4日、9月21日)をはじめ、宇田有三写真展「世界のゴミ捨て場から」(7月29日～8月3日)、宇田有三講演会「フォトジャーナリストの見た『途上国』」(8月3日)、主に中学・高校生の方を対象としたミニワークショップ(7月31日、8月1日、8月2日)などの国際理解教育活動を行ってきました。また、このほかにも、学校を訪問してのワークショップ、映画『神の子たち』上映会への協力などの国際理解活動を行いました。

近年、注目度が高まっているNGO活動ですが、その活動内容は、多岐にわたります。その中でICANは、発展途上国の現場で直接貧困層の支援を行う活動を続けてきましたし、これからも続けていくことでしょう。このような団体であるICANが、日本国内において国際理解教育を行っていくことにどのような意義があるのでしょうか。

まず、近年のNGO活動に対する注目と義務教育において総合学習が取り入れられたことなどにより、様々な形で国際理解のための教育・啓発活動に参画する機会が増えてきていたことが背景にあります。既に、以前より事務局の松岡は、実際に名古屋市を中心としたいくつかの学校へ出向いて、教育・啓発活動に取り組んでいます。

また、ICANの支援先以外にも世界には様々な貧困や戦乱、その他に苦しむ人々があります。このような問題を、この世界に同じ時間を共有して生きる者として自分たち自身の問題であると捉えてできることを考えていくこと、これらの人々に対する温かい目を持ち続けることが、今ほど求められているときはないでしょう。ICANの活動もこのような思いの延長線上にあります。参加してくれた人たちが、そこで何かを感じ、持ち帰って考えてもらうことができれば、たとえICANの会員やボランティアとして活動に参加してくれなくとも、一NGO団体として大きな意味がある活動ができたといえるでしょう。

6月から9月にかけての3回シリーズの国際理解講座を通していえることは、まず、参加される方々がとても意欲的で、活気ある雰囲気でも終えることができたということです。質疑応答ではかなり突っ込んだ質問や意見が出されていました。主催する私たちの側もしっかり準備して臨まなければならないと感じます。今回の講座に参加された方々からは、概ね良好な感想が聞かれ、一定の成果は上げられたのではないかと思います。

いくつかの反省点はあるものの、事務局の松岡をはじめ国際理解ワーキングチームのメンバーが打ち合わせを重ね、国際理解講座を作り上げてきた実績と、得られた成果は、これからのICANの中で一つの財産となっていくことでしょう。

2002年の国際理解教育活動報告書ができました！

2002年にICANが実施した、国際理解講座・写真展・学校での出張授業等をまとめた報告書が完成しました。ご興味のあります方は、事務局(お問合せ先は表紙参照)まで、ご連絡ください！

伊藤洋子パヤタス活動報告会に参加して 参加者(S.I.さん)

伊藤洋子さんのパヤタスでの活動についてのお話を直に伺うまでは、ゴミ山での過酷で涙ぐましく辛かった体験談を話されるんだろうかと想像していたのでした。伊藤さんについても、しっかりして厳しい人を想像していただきました。しかし、実際の伊藤さんは、目のキラキラした笑顔のまぶしい優しそうな人でした。伊藤洋子さんから語られたお話の中で、特に印象に残ったことをご紹介します。

1つ目は、レイナリンさんという女の子の話。

母親(肺病で働けない)と二人暮らしの女の子で、粗末な家に住む粗末なベッドしかない貧しい暮らしなのに、ICANの作業所でぬいぐるみを製作して収入を得、学校に通っています。将来は、先生になるのを夢見て頑張っているそうです。

2つ目は、チャーリータさんという女性の話。

彼女は貧しくて小学校2年生から学校に行けなくなってしまっていて読み書きができないまま、お手伝いさんとして働いてきたのですが、結婚して子どもがたくさんいるのにお連れ合いは家出してしまったそうです。子どもを養うためにゴミ拾いをしながら家計を支えていたのですが、今は、ICANの職業支援活動の「くまのぬいぐるみ」作りによって(ICANの仕事の方が、ゴミ拾いよりも健康に良いから)毎週1000円くらい稼いでいるとのこと。

伊藤さんは、レイナリンさんやチャーリータさんのことを、まるでパヤタスの自分の妹の話をしているかのような、親しい友達の思い出話をするような、そんな親しみを込めた口調でお話していました。辛く涙ぐましい体験談が飛び出すのかと思っていた私にとっては、とても意外でした。

マカティのショッピングモールでの販売が始まったころ、伊藤さんは、「チャーリータさんが字が読めないのに、ぬいぐるみ売りのブースで計算はどうやっているのだろう」と心配していました。すると、隣のブースの人が計算をお手伝いしてくださっていたことが分かりました。そのとき、伊藤さんは、フィリピンの人の親切な面に、改めて感心したそうです。

また、伊藤さんは、「チャーリータさんは字が読めないのにどうやってバスに乗るんだろう」と不思議に思っていたそうです。これも、隣のブースの人が「行き先表示の最初の文字が『F』のバスに乗ればいいのよ」と、アドバイスしていたことが分かりました。

チャーリータさんをめぐるエピソードからは、フィリピンの人たちが助け合って生きている、ほのぼのとした様子が伝わってきました。

それから伊藤さんにとって今は、パヤタスが自分の故郷みたいな感覚になっていて、一時帰国の時も、「みんな、日本にちょっと行って来るね！」と、挨拶してきたそうです。なぜ、そんなにも生き生きしているのか分からないけれど、それは、パヤタスの人達から得た何かなんだろうと思いました。

伊藤さんの笑顔を見ていると、人と人が仲良くなるうとするとき、国境とか人種とか、そんなことにはこだわらなくてもいいんだと、思いました。肌の色とか言葉とか違って、友達を大切に思う気持ちとか、どこの世界に行っても同じなんだと、思いました。

世界経済のしくみによって、『とてつもない貧困の場所』や『紛争の場所』に生まれたために、安全や人権が軽んじられてしまっていて、辛い思いをしている人達がいるという事実を、考えるきっかけがもっとあるといいと思いました。私も企画をお手伝いした、「神の子たち」の上映会も、ひとつのきっかけになったと思います。

伊藤洋子さんのお話を聴くことで、ICANの皆さんのスタディーツアーの活動等で、パヤタスの人達とうわべだけでない触れ合いのある交流とかが感じられて、パヤタスで生活している人達の幸せを願うICANのメンバーの方のお話も聴けて、本当に良かったです。有り難うございました。

2003 年定期総会のご報告

2月23日(日)14～17時に、NPO プラザなごや4階会議室にて、2003年の年次総会を開催しました。当日は会場参加者10名、書面票決117名、合計127名の方にご出席いただきました。定足数(会員総数230名の過半数)の参加により、総会は成立、議案説明・審議の結果、賛助会費導入、2002年事業報告・決算、2003年事業計画・予算、役員人事等全議案が可決されました。

	2002年決算	2003年予算	(支出内訳)	2002年決算	2003年予算
経常収入	12,445,117	17,275,000	里親支援	1,727,377	2,270,000
経常支出	10,956,810	19,272,000	給食支援	187,167	500,000
経常収支差額	1,488,307	1,997,000	パヤタス支援	810,414	2,450,000
他の資金収入	190,146	0	サンイシロ支援	138,854	240,000
他の資金支出	80,799	0	国際理解教育	1,058,689	1,400,000
前期繰越金	7,200,111	8,797,765	スタディツアー	329,070	702,000
次期繰越金	8,797,765	6,800,765	フェアトレード	1,529,677	2,120,000
			管理費	4,983,333	7,590,000
			予備費	0	2,000,000

会員の皆様、ご協力ありがとうございました。

ご協力ありがとうございました。 <2002年12月～2003年3月>

<文房具> フィリピンの子ども達への贈り物にしました!

北川さん、山下さん、緑丘中学の皆さん、啓蒙小学校の皆さん、高さん、西須さん、明の星女子高校の皆さん、大蔵さん、栗川さん、上五島中学の皆さん、上野中学の皆さん、高蔵中学の皆さん、馬場さん、石山中学の皆さん、三本柳小学校の皆さん、小林さん、千郷中学校の皆さん、桃園小学校児童会の皆さん、淵江第一小学校の皆さん、

【集まった寄付金】 97,798 円

<商品券> 福富さん、黒澤さん、伊藤さん、渡辺さん、山北さん

【集まった寄付金】 25,000 円

<書損じ葉書> 山村部(サンイシロ)の子ども達の奨学金となります。

若草さん、椿さん、青山文庫の皆さん、小熊さん、古畑さん、南波さん、花房さん、里村さん

【集まった寄付金】 13,756 円 相当

<未使用テレカ> 現地小学校での給食費用になります。50度数1枚で20人分の食費!

高畑さん、北田さん、巽さん、河原さん、山崎さん、浜本さん、星野さん、匿名、井上さん、信長さん、鳶田さん、保坂さん、石神さん、若草さん、長谷川さん、黒澤さん、山下さん、大蔵さん、栗川さん、熊谷さん、日高さん、横田さん、瀬田工業高校の皆さん、宗藤さん

【集まった寄付金】 112,300 円 相当

<年末年始募金>

坂本さん、菅野さん、佐俣さん、長谷川さん、細野さん、米澤さん、横田さん、大野さん、山田さん、加賀さん、服部さん、水戸さん、三村さん、小山さん、瀬戸さん、福富さん、佐藤さん、伊藤(み)さん、網代さん、藤村さん、澤田さん、山田さん、水口さん、大西さん、峯さん、江崎さん、坂井さん、滝さん、木村さん

【集まった寄付金】 139,000 円

<その他> 高蔵高校さんより76,796円、アーユス仏教国際協力ネットワークさんより125,000円、足利東ロータリークラブさんより70,000円の寄付金をいただきました。

関徹さんからパソコンのご寄付をいただきました。

<< 会員になって ICAN の活動を支えよう! >>

(ICAN の活動は会費と寄付金で支えられています。事業会費・事業寄付金は 20% が運営費、80% が事業費となります。正会費、運営寄付金は全て運営費となります。)

里親支援

ミンダナオの子ども達の通学を 1 対 1 で支援します。学費・学用品・養育費等を援助します。(年会費 1 万 8 千円)

給食支援

ミンダナオの少数民族の小学校 3 校で、栄養不良児に給食を提供しています。(年会費 6 千円)

パヤタス支援

パヤタスごみ処分場周辺の住民への医療および職業訓練支援(年会費 6 千円) 医療会員と職業訓練会員とがあります。

サンシロ支援

山村で少数民族の子ども達の教育支援や家庭内植林などを支援します。(年会費 6 千円)

ICAN の活動全般を支える正会員 維持会費 1 万円、一般会費 3 千円

ICAN 全般の活動をご支援いただく正会員です。事務局やマニラの人件費、通信費、会報印刷費など、どうしても必要な運営費、ICAN の基盤作りにご支援ください。

2003 年度会費のご入金状況 (2003 年 1 月 ~ 2003 年 3 月)

新規ご入会

佐俣寅雄さん、諸戸一生さん、加藤裕さん、長井昭三さん、ACA-AQUA さん、北村清幸さん、北村美智子さん、山田知子さん、秋山宗一さん、應武則嘉さん、小島可奈子さん、平野智美さん、清水俊男さん、大江葉子さん、伊藤美里佳さん、坂詰知子さん、以上 16 名

会員のご継続

太田美佐子さん、伊藤みどりさん、足立まりなさん、岩本功さん、内海真子さん、小倉笑美子さん、朝倉脩二さん、飯塚光子さん、池田真由美さん、井上美佐子さん、小野維人さん、犬飼真理さん、江寄順子さん、岩井清治さん、内山裕さん、大西穰さん、浅井一郎さん、浅見昌一さん、IPIS さん、大野禮子さん、網代淳一さん、伊藤めぐみさん、磯辺政枝さん、池田史朗さん、朝倉陽さん、江澤貴美さん、萩原勝さん、大西咲子さん、北本紘一さん、小山明彦さん、亀岳中学生徒会さん、工藤道子さん、河崎賢一さん、粕川今日子さん、片岡惇子さん、昆正美さん、木村三男さん、木村史子さん、駒津湖帆さん、桑原暁子さん、黒瀬公美さん、小寺寿臣さん、加賀佳子さん、畔柳東一さん、坂本世津夫さん、木村緑さん、串田春代さん、瀬戸裕子さん、澤田裕美子さん、佐藤和枝さん、清水満夫さん、鈴木のぞみさん、関徹さん、菅野真美さん、菅野節さん、西條竹彦さん、佐保克彦さん、多昌広治さん、竹本弘美さん、天藤敬子さん、太刀原祐二さん、寺田達志さん、滝映子さん、田中郁夫さん、田島利晃さん、高沢美和子さん、竹田孝行さん、堤千代子さん、竹内久人さん、外村律子さん、竹ヶ原義男さん、龍田成人さん、高井充さん、土森正昭さん、龍田麻子さん、田中正之さん、戸塚健さん、龍田シズさん、陳綾さん、田中利昌さん、田中洋充さん、沼崎清子さん、野口晶子さん、仲田誠司さん、長屋ハルミさん、野口繁雄さん、野崎貴彦さん、中島浩子さん、虹の会さん、長谷川美穂子さん、西崎裕雅さん、西田秀雄さん、服部英子さん、林ますみさん、速水美智子さん、藤村昭子さん、飛田明子さん、林和慶(かずよし)さん、林和慶(かずのぶ)さん、保坂ひろ子さん、本田優子さん、馬場正樹さん、林國博さん、福澤明美さん、古畑生子さん、松島敏江さん、三村和子さん、松本茂美さん、松下文彦さん、宮沢潤さん & 高橋景子さん、細野富美栄さん、水口正人さん、守屋恵美子さん、三村昇さん、峯由美子さん、松澤直輝さん、水戸市郎さん、松井慎哉さん、松岡司さん、森広和さん、吉田郁子さん、横田昌三さん、山田新吾さん、安島秀樹さん、山田観千さん、吉井浩一郎さん、山根邦彦さん、山田正子さん、余門光子さん、山北暢子さん、脇田里美さん、以上 132 名

ありがとうございました!